

資料1

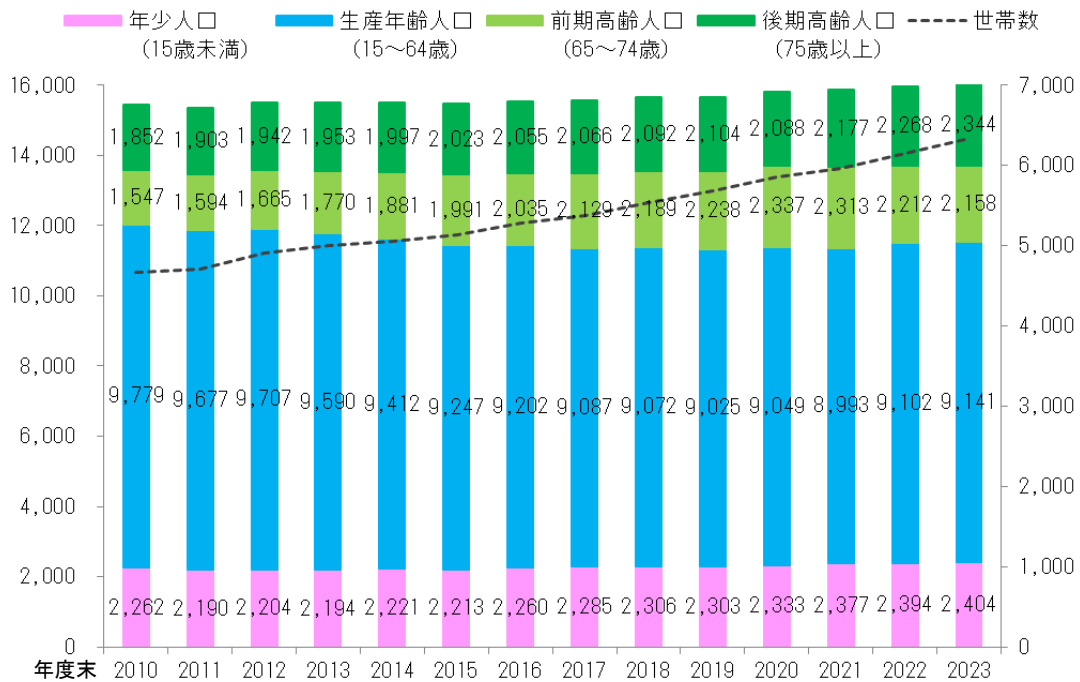
第2期大刀洗まち・ひと・しごと創生総合戦略（よかまち創生プロジェクト） 総括

1. 全体総括

1-1 人口の推移

大刀洗町の人口は近年、人口、世帯数ともに増加傾向にあり、令和5（2023）年度末の人口は16,047人となっている。なかでも、年少人口は平成27（2015）年度以降、連続して増加しており、令和元（2019）年末と比較して約100人増加している。

【年度末人口の推移（人口ビジョン掲載）】



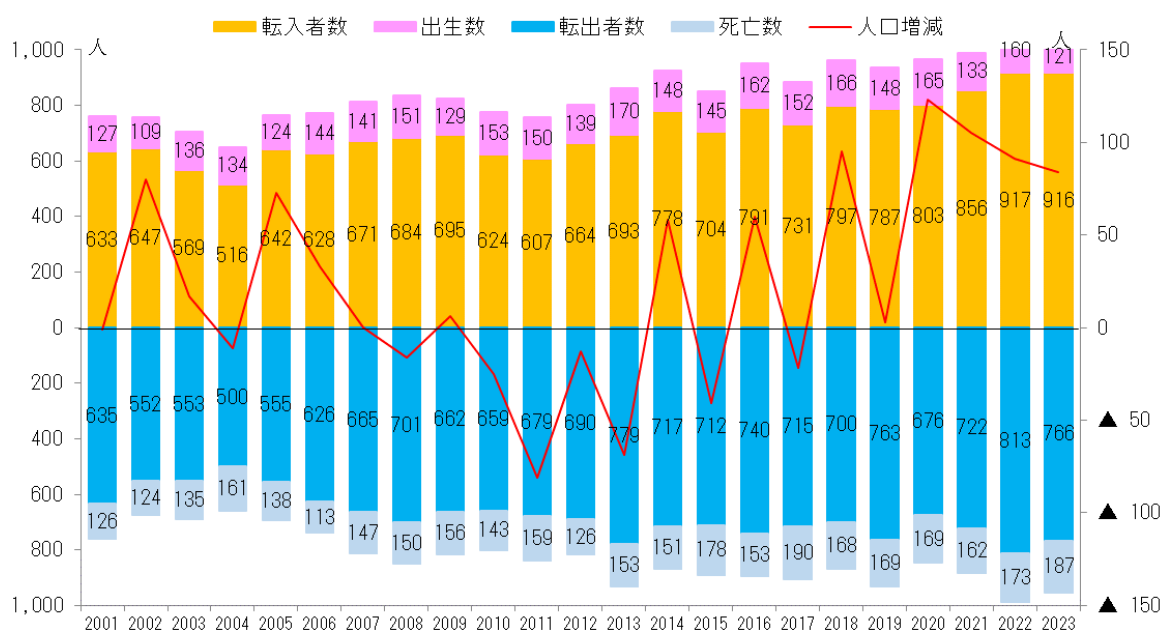
（出典）大刀洗町「住民基本台帳」※平成24（2012）年から外国人もカウントしている。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
年少人口 （15歳未満）	2,262	2,190	2,204	2,194	2,221	2,213	2,260	2,285	2,306	2,303	2,333	2,377	2,394	2,404
生産年齢人口 （15～64歳）	9,779	9,677	9,707	9,590	9,412	9,247	9,202	9,087	9,072	9,025	9,049	8,993	9,102	9,141
前期高齢人口 （65～74歳）	1,547	1,594	1,665	1,770	1,881	1,991	2,035	2,129	2,189	2,238	2,337	2,313	2,212	2,158
後期高齢人口 （75歳以上）	1,852	1,903	1,942	1,953	1,997	2,023	2,055	2,066	2,092	2,104	2,088	2,177	2,268	2,344
合計	15,440	15,364	15,518	15,507	15,511	15,474	15,552	15,567	15,659	15,670	15,807	15,860	15,976	16,047
世帯数	4,670	4,707	4,909	5,003	5,061	5,135	5,287	5,377	5,541	5,683	5,854	5,965	6,157	6,334

1-2 自然増減・社会増減の動向

人口増減の要因となる4つの要素（出生、死亡、転入、転出）のうち自然増減について、近年は死亡数が増加傾向に伴い、自然動態はマイナスが続いている。一方、社会増減においては、平成20（2010）年から転出超過の傾向が続いていたが、平成28（2016）年からは転入超過が続いている。本町の人口増減においては自然増減よりも、社会増減の方が大きな影響力を有している。

【人口増減の推移（人口ビジョン掲載）】



（単位：人）

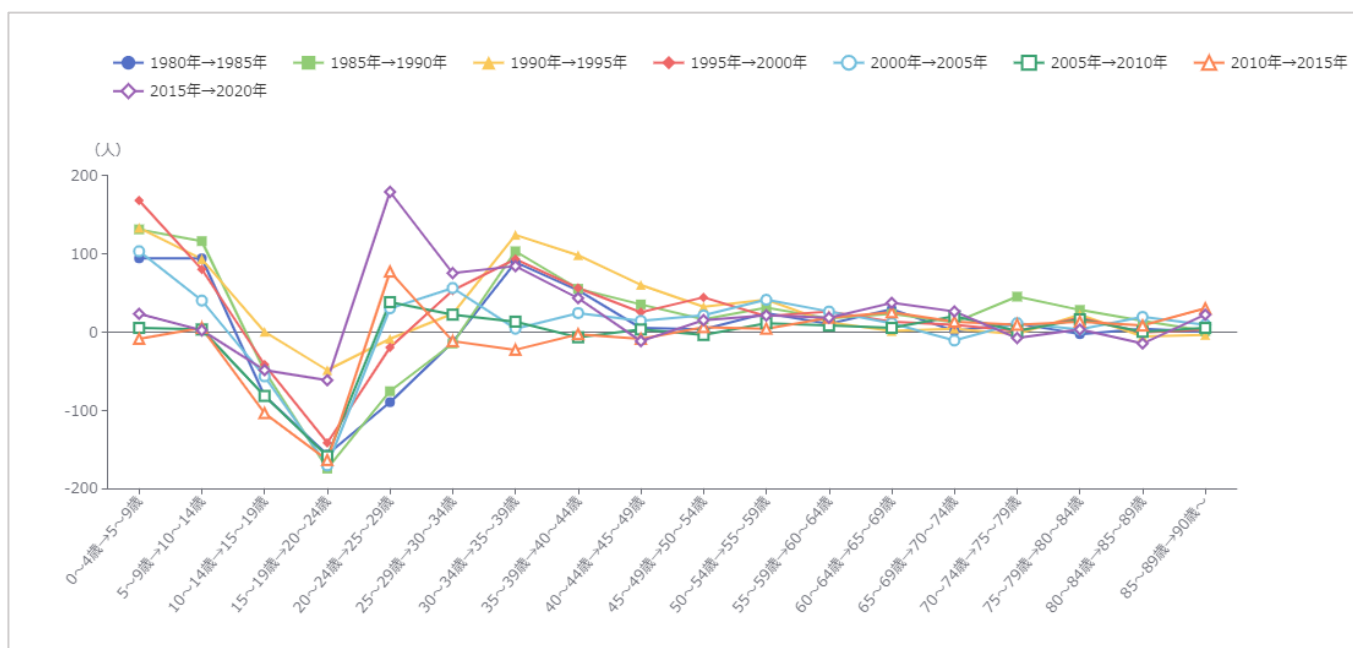
	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
人口増減	▲ 1	80	17	▲ 11	73	33	0	▲ 16	6	▲ 25	▲ 81	▲ 13
転入者数	633	647	569	516	642	628	671	684	695	624	607	664
出生数	127	109	136	134	124	144	141	151	129	153	150	139
転出者数	635	552	553	500	555	626	665	701	662	659	679	690
死亡数	126	124	135	161	138	113	147	150	156	143	159	126

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
人口増減	▲ 69	58	▲ 41	60	▲ 22	95	3	123	105	91	84
転入者数	693	778	704	791	731	797	787	803	856	917	916
出生数	170	148	145	162	152	166	148	165	133	160	121
転出者数	779	717	712	740	715	700	763	676	722	813	766
死亡数	153	151	178	153	190	168	169	169	162	173	187

※各年度、前年10月～当年9月までを集計
（出典）大刀洗町「住民基本台帳」

年齢階級純移動数の時系列分析は大刀洗町の人口について、「2015年の0～4歳→5～9歳になった2020年に何人増減したか」を、5年ごとに示したもので、本町においては、直近の2015年→2020年の数値をみると「20～24歳→25～29歳」「25～29歳→30～34歳」「30～34歳→40～44歳」の年齢階級は2010年→2015年時と比較して増加している。また、男女ともに「10～14歳→15～19歳」「15～19歳→20～24歳」は純減の傾向が続いており、これは進学や就職に伴うものと推察できる。

【年齢階級純移動数の時系列分析（大刀洗町）】



男女区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
年齢範囲	0～4歳	0～4歳	5～9歳	5～9歳	10～14歳	10～14歳	15～19歳	15～19歳	20～24歳	20～24歳	25～29歳	25～29歳	30～34歳	30～34歳	35～39歳	35～39歳	40～44歳	40～44歳	45～49歳	45～49歳	50～54歳	50～54歳	55～59歳	55～59歳	60～64歳	60～64歳	65～69歳	65～69歳	70～74歳	70～74歳	75～79歳	75～79歳	80～84歳	80～84歳	85～89歳	85～89歳
1980年→1985年	59	35	46	48	-44	-38	-115	-42	-17	-73	-3	-10	41	48	32	21	8	-3	-5	8	14	10	9	1	13	16	-3	4	10	1	3	-6	-5	9	1	-1
1985年→1990年	78	53	60	56	-32	-18	-149	-26	-14	-62	-21	6	60	43	35	20	25	10	5	11	21	10	7	10	18	5	1	11	19	26	0	28	4	10	0	1
1990年→1995年	66	67	45	48	1	-1	-78	29	17	-26	26	-3	67	57	58	40	15	45	19	13	20	21	7	5	2	-1	4	0	-8	5	2	20	0	-6	-3	-1
1995年→2000年	96	72	49	31	-31	-11	-127	-15	14	-34	36	17	48	45	36	20	17	8	30	14	5	15	14	12	8	5	-1	10	-5	6	5	13	4	-5	-1	4
2000年→2005年	39	64	11	29	-26	-31	-85	-86	54	-24	57	-1	6	-2	13	11	12	2	8	13	29	12	9	17	11	0	-13	2	6	5	-5	8	9	10	0	9
2005年→2010年	4	1	16	-13	-50	-32	-128	-31	-17	55	8	14	-4	17	-3	-4	8	-5	-3	-1	15	-4	0	8	5	0	10	10	3	-2	0	16	0	0	1	4
2010年→2015年	0	-9	7	-2	-74	-30	-121	-43	57	20	38	-50	13	-36	7	-10	-12	3	15	-9	3	1	15	3	9	16	10	3	6	3	4	9	-2	10	17	13
2015年→2020年	-5	28	3	-1	-39	-10	-27	-35	99	80	68	7	50	34	39	4	-1	-11	11	4	6	15	1	17	17	20	20	6	3	-11	-5	8	-12	-3	-4	26

（出典）総務省「国勢調査」、

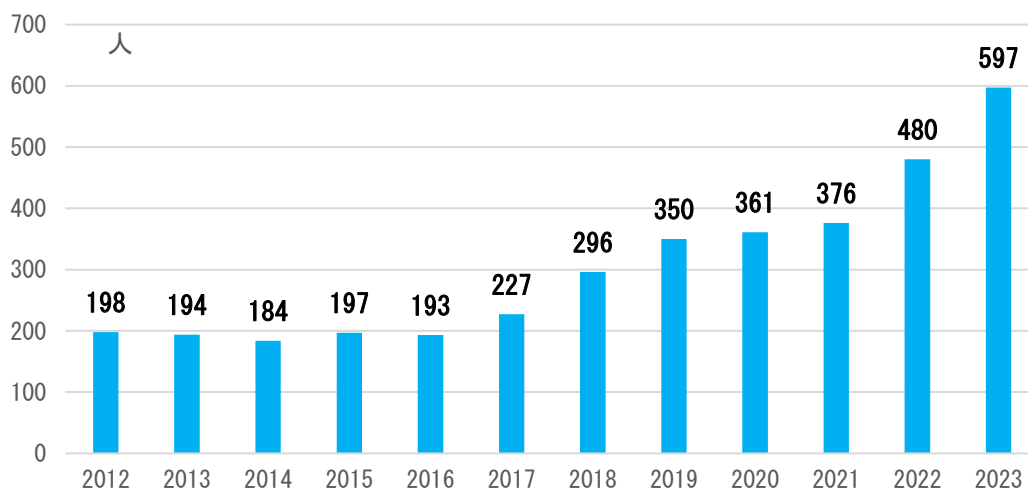
厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

1-3 人口の動向における特徴

1-3-1. 外国人人口の増加

大刀洗町の外国人人口は平成 29（2017）年度末から増加傾向にある。外国人人口は福岡県や日本全国においても増加傾向である。

【年度末の外国人人口（人口ビジョン）】



（出典）大刀洗町「住民基本台帳」

【福岡県在留外国人数の推移】

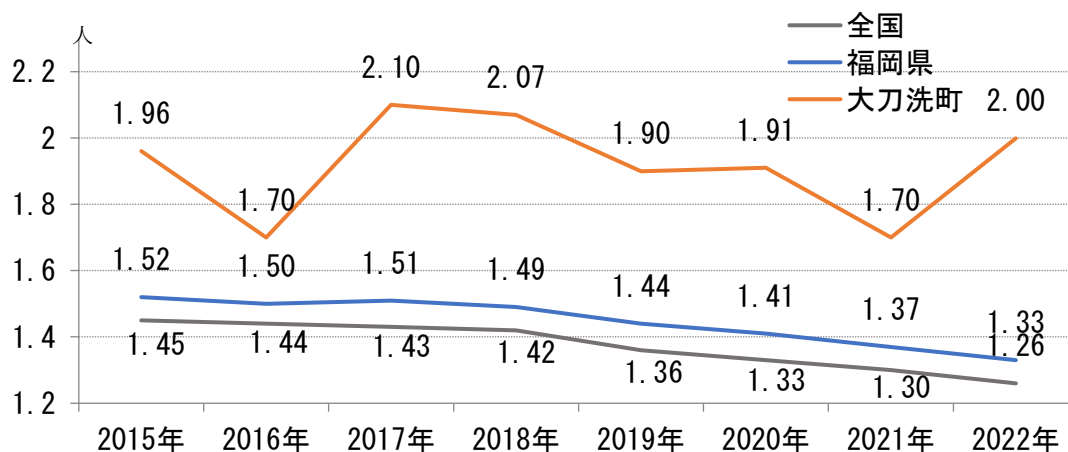
	平成 25 年末	平成 26 年末	平成 27 年末	平成 28 年 末	平成 29 年 末	平成 30 年 末	令和元年末	令和 2 年末	令和 3 年末	令和 4 年末	令和 5 年末
	(2013)	(2014)	(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)
総 数	56,437	57,696	60,417	64,998	72,039	77,044	83,468	81,072	76,234	89,518	99,695

（出典）福岡県の国際化の現状及び出入国在留管理庁「在留外国人統計」より作成

1-3-2. 出生率の推移

出生率は全国や福岡県と比較し高い水準で推移しており、年少人口も増加傾向にある。

【出生率の推移（人口ビジョン）】



出典：大刀洗町

1-3-3. 人口の地域差

菊池校区の人口は増加傾向にあるが、大堰校区の人口は減少傾向にあり、人口動態の地域差が生じている。人口が減少している地域で、高齢化の進展に伴う高齢者の見守りの重要性が高まるものの、担い手の確保や空き家の増加など地域コミュニティの維持における課題が深刻化する恐れがある。一方、人口が増加している地域では、核家族化が進むなかで他市町村からの転入者が増加し、生活が多様化している影響で、従来の地域コミュニティの弱体化、つながりの希薄化が懸念される。

【令和6（2024）年3月末時点の校區別人口】

	老年人口		生産年齢人口		年少人口	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合
大堰	2,166 (▲310)	39.2% (8.7%)	1,084 (▲392)	50.0% (▲9.6%)	234 (▲11)	10.8% (0.9%)
本郷	4,496 (193)	28.4% (4.2%)	2,495 (▲117)	55.5% (▲5.2%)	723 (75)	16.1% (1.0%)
大刀洗	3,128 (▲58)	30.8% (5.1%)	1,752 (▲228)	56.0% (▲6.1%)	413 (25)	13.2% (1.0%)
菊池	5,962 (780)	21.4% (2.7%)	3,686 (328)	61.8% (▲3.0%)	1,002 (147)	16.8% (0.3%)

（出典）住民基本台帳 ※（）内は平成26年（2014）年3月末時点との比較

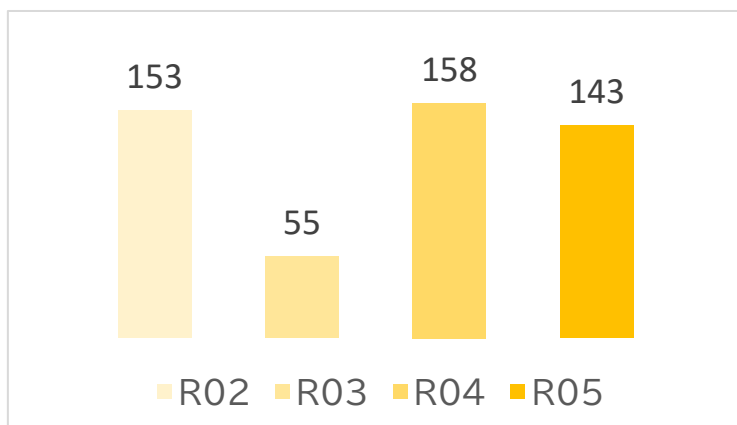
2. 基本目標別総括

令和2年度より開始した第2期大刀洗よかまち創生プロジェクトは、大刀洗町人口ビジョンを踏まえたオリジナルの戦略として町の特色を活かして「活力あるコミュニティの維持」を目指すべき姿としている。将来にわたって安心して暮らしを営むことができる“よかまち”であり続けられるよう5つの基本目標を掲げ基本的方向のもと各事業を展開してきた。令和6年度時点で広域連携事業含め全34事業を実施している。

2-1 基本目標① 行ってみたい住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。

KPI（数値目標）社会増減（転入者数－転出者数） 0人以上を目指す。

【社会増減】/住民基本台帳（年度集計）



2-1-1 基本目標総括

大刀洗町への人の流れをつくるため、大刀洗町人口ビジョンの人口の将来展望をもとにKPIとして設定した。町の強みである近隣市町と比較して安価な家賃や地代であること、交通アクセスや近隣市町村へ雇用の場があること等から、菊池校区を中心に民間による住宅開発が進んだことが大きな後押しとなり、社会増の状態が継続しKPIは達成している。

これまで『移住を促進する「住んでみたい」事業の展開』が中心であり、基本目標のKPIも達成して社会増をもたらしている。第3期以降は、第1期、第2期総合戦略策定時の人口動態や働き方や移住への考え方の変化等の社会変容を踏まえ、基本目標①における事業の在り方やバランスについては検討する必要がある。

2-1-2 個別事業総括

移住応援BOOKやワンストップで移住相談を受ける窓口の設置など事業のKPI自体は目標値に達していないものの、転入者が多い本町において相談環境の整備を行ってきた。町独自の定住促進住宅整備事業は子育て世帯を中心とした世代を呼び込み、定住への一定程度の効果があった。

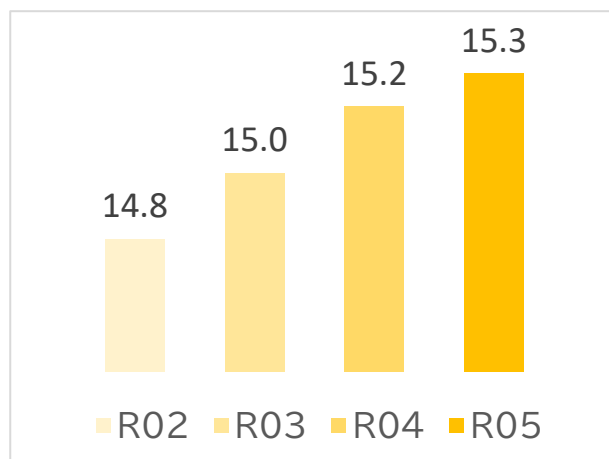
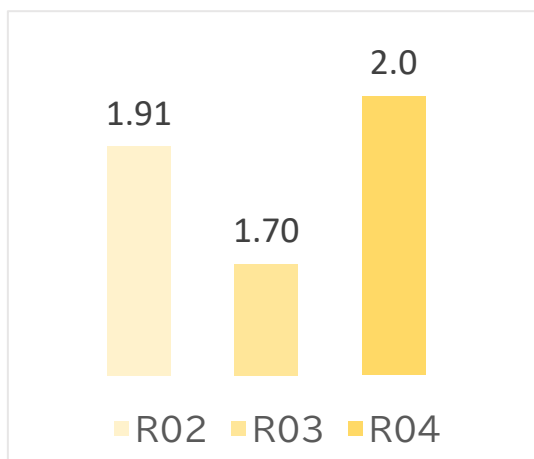
2-2 基本目標② 子どもも親も共に輝けるようみんなで応援する。

KPI（数値目標 1）出生率 1.64 以上を目指す。

（数値目標 2）年少人口の割合 14.1%以上を目指す。

【出生率】/町独自の計算による

【年少人口割合】



2-2-1 基本目標総括

大刀洗町では転出入ともに、子育て世帯の動きが多いため、「子育て世代」の転入を促し、転出を抑制するため、出会いから出産までの応援、育む応援、子どもの応援などの事業を実施してきた。その支援策は総合戦略に掲載している事業にとどまらず、待機児童解消のための保育園の新設や保育料の更なる負担軽減、電子黒板導入といった学校の学習環境の充実など多岐にわたる。

基本目標の KPI は出生率及び年少人口割合は大刀洗町人口ビジョンをもとに設定しており、継続して達成している。総合戦略に掲載している事業と基本目標 KPI の直接的な因果関係までは読み取ることはできないが、結婚から出産、子育ての不安を軽減し切れ目なくサポートする事業が貢献しているものとみている。

2-2-2 個別事業総括

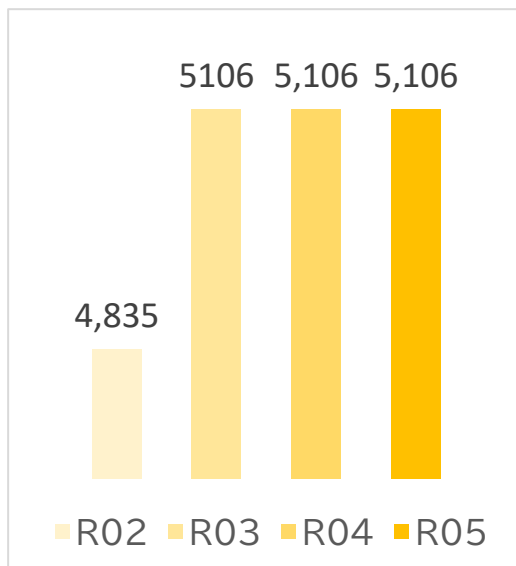
こんにちはお母さん事業や子育て相談事業といった専門職が訪問し家庭で抱え込まずに相談できる環境づくりを進めてきた。イクメン創生プロジェクトによる体験型イベントを通じた男性の家事・育児参加の促進や保育士奨学金返済事業による人材確保など親へのサポートのみならず地域で一体となり子どもを育てる仕組みを構築してきた。

個別事業の KPI では「イベント参加者数」や「支援者数」などを設定しており事業の効果を検証するため、第 3 期においても同様の事業を設定する場合には「イベント参加後の家事・育児へ参加意欲が向上した割合」などが適当であり検討の必要がある。

3-1 基本目標③ しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する

KPI（数値目標） 町内事業所の従業員数 4,835 人以上を目指す。

【町内事業所の従業員数】/経済センサス活動調査（公務員を含まない）



3-2-1 基本目標総括

基本目標の KPI は、策定時の数値維持を設定していた。高速道路インターチェンジ近いという立地条件等から、近年は倉庫業や運輸業の進出が進み、運輸業・郵便業、卸売業・小売業を中心に従業員数は増加し、目標値を達成している。

第 3 期においては、大刀洗町の基幹産業である農業について現状を踏まえ発展させるための具体的施策の立案や、町内企業の支援、地域経済循環の仕組みづくりをおこなっていく必要がある。

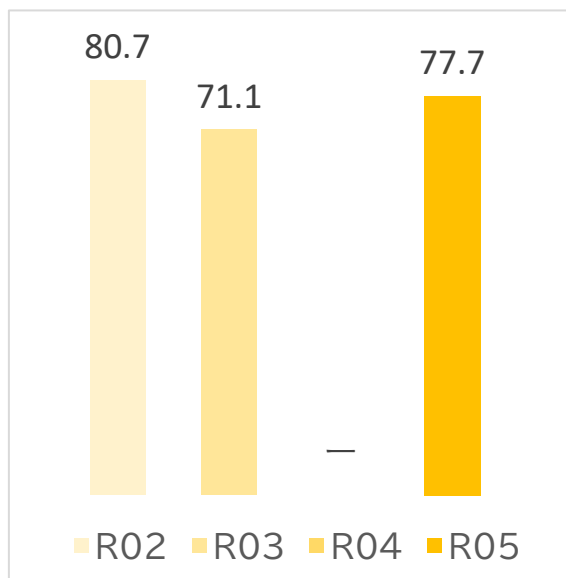
3-2-2 個別事業総括

商工会と連携し、起業希望者向けのセミナー（創業塾、インボイス制度等への対応講習会）を開催した創業支援事業では令和 2 年度から令和 5 年度の間に建設業やサービス業等で 10 件の起業があった。また、令和 6 年度から新たに創業・新事業展開支援補助金交付事業を開始し、創業や新事業を展開するために必要な経費の一部を補助し更なる後押しを行っている。また、町民参加型マルシェ支援事業（かてて）では定期的にかててマルシェを開催、出品者間の横のつながりづくりをとおして多様な人材が活躍できる場の創出を行った。

4-1 基本目標④ いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。

KPI（数値目標）「将来も大刀洗町に住み続けたい」と思う割合 80%を目指す。

【将来も大刀洗町に住み続けたいと思う割合】



4-2-1 基本目標総括

基本目標④では、町民が「いつまでも大刀洗町で暮らしたい」と感じられるように町民が集い繋がる仕組みづくりを行い、新たな担い手確保や地域への愛着、誇りを醸成する施策やいきいき健康に暮らすことができるよう健康増進施策、安心して暮らすことのできるよう防災や交通施策を中心に展開してきた。基本目標④の KPI は、令和 2 年度は達成できたがそれ以外年度では達成できなかった。引き続き、町民ニーズを把握し、住民サービスの向上につとめていく必要がある。

4-2-2 個別事業総括

同窓会推進事業や公共空間活性化事業はコロナ禍の影響を受け、個別事業の KPI を達成は難しく、町民同士が集うきっかけづくりとして対象者の掘り起こし、制度周知などが必要となっている。

大刀洗町健康ポイント事業では、健康に関する目標を設定し、健（検）診の受診や町が実施するウォーキングイベントなどの健康イベントへ参加することでポイントを付与しており、日々の健康づくりを町民に広く呼びかけている。

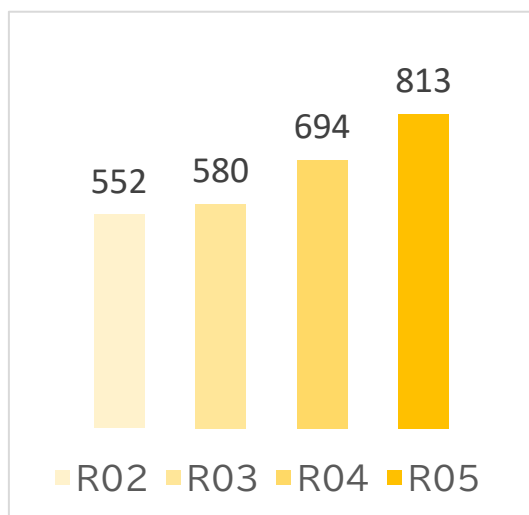
令和 4 年度から、のりあい定額タクシー事業を開始し、自家用車などの移動手段を持たない人や交通空白地への対応を行った。個別事業 KPI は達成していないものの、着実に利用者を増やしサービスの定着につながっている。今後も高齢化が進むことから鉄道やバスといった他の公共交通と連携しながら多様化するニーズへ対応していく必要がある。

5-1 基本目標⑤大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。

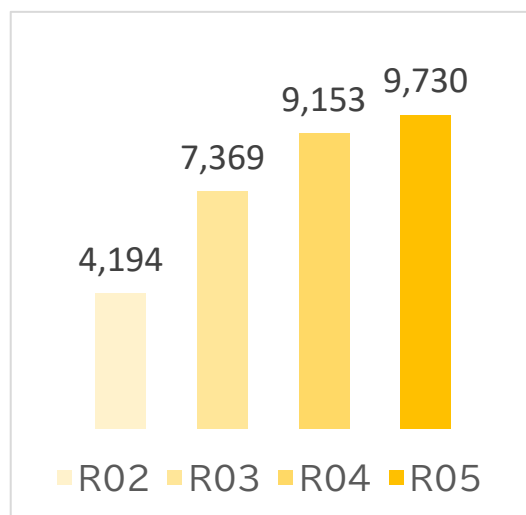
KPI（数値目標 1）たちあらい応援大使の人数 1,000 人以上を目指す。

（数値目標 2）大刀洗町公式 SNS のフォロワー等件数 5,000 件以上を目指す。

【たちあらい応援大使】



【大刀洗町公式 SNS フォロワー等件数】



5-2-1 基本目標総括

たちあらい応援大使は町に縁や愛着をもつ人を町公認の大使に任命し、大使が SNS や友人に広めるなど関係人口づくりとして事業を進めた。定期的な大使への情報発信やえだまめ収穫祭などのイベントで大使募集を行うなど、着実に大使数を伸ばし、令和 5 年度には 800 人に達しているが、いまだ目標値には達していない。

大刀洗町公式 SNS フォロワー等件数は、町公式 Facebook、Instagram など写真や投稿をシェアすることで町の情報を拡散・共有した。さらに令和 3 年度に開始した町公式 LINE アカウントで大幅にフォロワー等件数が増加し KPI を達成している。

5-2-2 個別事業総括

たちあらい応援大使は福岡県だけでなく関東圏や海外に広がり、町の PR イベントへ再訪してもらうなど継続的な関係が築いている。課題としては、大使同士の交流があまりないため、交流イベントなどを開催し、大使事業の次の展開を検討する必要がある。また、たちあらい応援大使店舗事業においても町外のつながりのある応援店舗を募り、大刀洗町産食材フェアやメニューの開発など PR の一端を担ってもらっており地域ブランド力の強化につながっている。

6-1 おわりに

東京への人口の一極集中是正と少子高齢化への対応として地域がそれぞれの特色を活かす地方創生への取組みが始まり、約 10 年が経過しようとしている。大刀洗町でも移住定住相談窓口設置や定住促進住宅整備による移住定住の促進と民間による住宅開発が進み、人口が減少する自治体もあるなか、人口は増加してきた。また、子育て支援に力をいれハード・ソフト面の充実を図り、年少人口も増加した。そういった点において本町の地方創生は一定の成果があったといえる。

第 3 期総合戦略においては、変容する外部環境や多様化・複雑化する住民ニーズを踏まえ企業や多様な主体との連携を模索し、引き続き久留米広域連携中枢都市圏など広域的な枠組みを活用しながら活力ある地域コミュニティの維持のために事業を展開する。また、地域の特色、強みを活かした地域づくりを、住民との対話を重ねながら、これからも住民が愛着と誇りをもってずっと住み続けたいと思う“よかまち”づくりを進める。